研 究 領 域 名	性スペクトラム - 連続する表現型としての雌雄
領 域 代 表 者	立花　誠（徳島大学・先端酵素学研究所（酵素）・教授）
研　究　期　間	平成２９年度～平成３３年度
研究領域の概要	本領域では、性を理解するにあたり、「二項対立的な雌雄」から「連続する表現型としての雌雄（性スペクトラム）」へと、パラダイムシフトを引き起こす新たな概念を提唱する。遺伝、内分泌、環境要因がそれぞれ、性スペクトラムの基盤形成、細胞・器官の間での同調、ならびに修飾・撹乱を通じ、性スペクトラムを成立させる。したがって、そのメカニズムを解明することで、連続する表現型としての性を理解することが可能である。また、種々の指標をもとにした性の定量化を通じ、雌雄の間に位置する性の存在を示すことで、従来の二項対立的な性から多様な性へと、性を再定義することが可能である。このような性の理解は、成熟した社会の形成を促すと期待される。
科学研究費補助金審査部会における所見	本研究領域は、性を二項対立的に分類するのではなく、メカニズム・フェノタイプにおいて連続するスペクトラムとして捉え、実績を有するメンバーが様々な動物実験系でその現象を細胞学および遺伝子レベルで検証し、新概念を確立しようとする意欲的なものであり、新学術領域研究として相応しいと評価される。本研究領域が推進されることにより従来の「性分化」に関する研究分野の蓄積の上にさらに学術的に大きな進展をもたらすと共に、社会の「性」に対する意識を変える科学的根拠を与える可能性を有する。 研究組織については、総括班、国際活動支援班、各研究組織の役割および活動内容が明確になっており、有機的連携が保たれ、領域マネジメントが効率的かつ効果的に行い得る体制となっている。 性スペクトラムを３つの異なる観点（環境・内分泌・遺伝）を切り口として計画を推進する提案となっており、各項目には適任の計画研究代表者が配置され、強い研究計画案となっている。一方で、３つの異なる研究項目に対して公募研究の採択目安件数が十分ではなく、本研究領域の目的を達成するためには、できるだけ多くの関連する研究者に、本研究領域へ参加する機会を与えることが望まれる。